



9月宅習調査の結果から

普通科を対象に、9月14～20日の7日間、宅習時間調査が実施されました。その集計結果は下の表の通りです。

【曜日別】

学年	平日計	土・日	週合計	携帯電話
1	6.9	3.4	10.3	12.1
2	8.6	6.2	16.9	10.6
3	12.3	5.8	18.1	7.3

【科目別】

学年	国語	数学	英語	地公	理科	家芸保
1	2.4	3.3	3.4	0.9	0.3	0.0
2	5.6	3.9	5.9	0.8	0.4	0.2
3	3.9	5.9	4.4	1.6	2.2	0.0

(単位は時間)

【参考資料・昨年度の曜日別】

学年	平日計	土・日	週合計	携帯電話
1	6.3	2.7	9.0	9.5
2	7.8	3.4	11.2	9.3
3	12.7	4.9	17.6	4.7

注目して欲しいのは、週合計の**宅習時間の少な**
さと、**携帯電話の使用時間の多**
さです。上の結果をふまえ、皆さんの現状を分析すると、

1年

- 平日の学習時間は、昨年度より増えているが、土日の宅習時間をもう少し増やす必要がある。
- 携帯電話の使用時間が過年度よりかなり多い。学習の妨げになっているのでは？
- 6月の調査と比較すると学習時間が微減している。

2年

- 平日の学習時間は昨年度(現3年生)並みであるが、週末の学習時間が増えている。
- 3年に向けて意識が高まりつつあるので、今後も継続してほしい。
- 携帯電話の使用時間が過年度より多い。

3年

- 受験前ということもあり、学習時間は前々回・前回よりは増えている。
- 土日の学習時間が平日とあまり変わらない。部活動引退後の切り替えが出来ているか不安が残る。
- 土日の時間の使い方を工夫し、宅習時間を増やす必要がある。

調査期間の中に3連休を含んでいたにも関わらず、このような結果となってしまいました。普通科の生徒の宅習時間としては、驚くほど少ないと言えます。では、理想的な宅習時間とはいったい何時間なのでしょう？

四半世紀前は、ヨーロッパ(4・6・8)の宅習時間が必要だと言われていました。1年は1日「4時間」、2年は「6時間」、3年は「8時間」勉強しろという意味でした。3年生になると午後4時から始めて、休憩なしで午前0時まで勉強なくては達成できない計算になります。若干の難しさを感じる時間設定です。そこで、次に提唱されたのはニシムタです。少しだけ身近な宅習時間になりました。ニシムタ(2・4・6)です。しかし、これでもまだ遠く及ばないということで、現在は「各学年+1時間」が理想の宅習時間とされています。1年「2時間」、2年「3時間」、3年「4時間」です。週換算すると、1年「14時間」、2年「21時間」、3年「28時間」です。皆さんの宅習時間は、どの学年も全く足りていません。平日休日関係なく計算しても足りていないのです。過年度比較による時間の微増微減に一喜一憂している場合ではありません。皆さんには今、宅習時間の「**激増**」が求められているのです。

スマホは便利ですね！！

宅習時間調査の「携帯電話の使用時間」に着目すると、昨年度と比較して、週合計が、1年生で「2.6時間」、2年生で「1.3時間」、3年生で「2.6時間」も増加しています。1・3年生は昨年度よりも、毎日22分も長くスマホに触れているということになります。22分間でできることを考えてみましょう。国語の漢字練習にえば300字は書けます。数学であれば日々題が解き終わります。英語であれば600選の小テスト対策にちょうど良いぐらいの時間です。毎日毎日そんな貴重な時間を YouTube を見たり、ゲームをしたり、音楽を聴いたり、何かを呟いたりするのに使っていると考えると、少しもったいないと思いませんか？

しかし、スマホには便利な面もあります。情報収集の道具としては非常に優れていると言えるでしょう。皆さんがスマホと切っても切れない関係なら、できるだけ上手に利用してください。

10月は全学年で模擬試験が実施されます。どの学年もベネッセのデジタルサービスに登録していると思います。1・2年生は9月7日(木)から「WEB目標設定」が開始されています。自分の志望校に登録し、目標点数を確認しましたか？ライバルと差がつく模試受験学習のススメ「サガ勉(差がつく学習コンテンツ集)」も紹介されています。動画や暗記カードを使って学習の効率化を図ってください。また、模試受験後は「WEB自己採点」や「WEB動画解説」なども公開されています。先生が復習してくれるのを待つのではなく、試験が終わったらすぐに自発的に復習を始めてください。道具に使われるばかりではなく、道具を使ってやろうという発想の転換が時には必要なのです。

答案作成時の注意点

10月、11月は試験が集中しています。10月25日・26日は実力考査が行われ、10月28日・29日には1・2年生の進研模試が実施されます。そして、11月になれば2学期の期末考査、3年生はいよいよ卒業考査を迎えます。試験に臨むにあたり、今一度基本に立ち返り、答案作りの常識を押さえ、1点でも多く得点できる解答を目指してください。

国語

① 一画一画しっかりと丁寧に書くこと

漢字の書き取り問題は一つひとつの線をきびしくチェックされる。採点者にはっきりわかるように、一画一画を丁寧に書こう。

② 文末表現に注意すること

理由を問われたら「～から」「～ので」と答える、「何か」と問われたら体言(「～こと」など)で結ぶ。

③ 設問中に解答の仕方について指示がある場合は

注意すること

例えば「本文より抜き出せ」という問いに対しては、本文以外の言葉を使わないようにしましょう。「○字以内で書け」とある場合には、制限字数の8割は書こう。

数学

① どう考えて解いたかを必ず記し、最後まで解けなくても消さないこと

最後まで解いていなくても、必要な条件が押さえられていれば部分点をもらえることがある。

② 「～より」「よって～」などの展開の理由や図はしっかりと記すこと

言葉による説明や解答に使う図などは常に書いておこう。「どうすれば伝わりやすいか」を考えて答案を作る。

③ 使った公式をしっかりと書き、途中の計算式も省略しないこと

公式を書いて減点されることはない。

④ 必ず見直し時間を確保すること

計算ミスでの失点をなくすため、解き終わったら必ず検算しよう。

英語

① 「hとn」「vとr」など紛らわしい文字は丁寧に書くこと

紛らわしい文字はスペリングミスともとられかねない。答案は人に見てもらおうものだという意識を持つ。

② 設問の指示は丁寧に読むこと

答え方の指示を無視して書かれた答案は得点にならない。

③ 和訳はわかるところだけでもとにかく書いてみる

主語と述語だけでも探して書いてみる、わかる単語から推測して書いてみるなどの粘りが大切。

④ 文法上のケアレスミスには十分注意すること

「三人称・単数・現在の-s」を忘れる、時制を間違えるなど文法上のケアレスミスは意外に多い。しっかり見直して、無駄な失点をしないように気をつけよう。

進研模試「進路研究ノート」より

